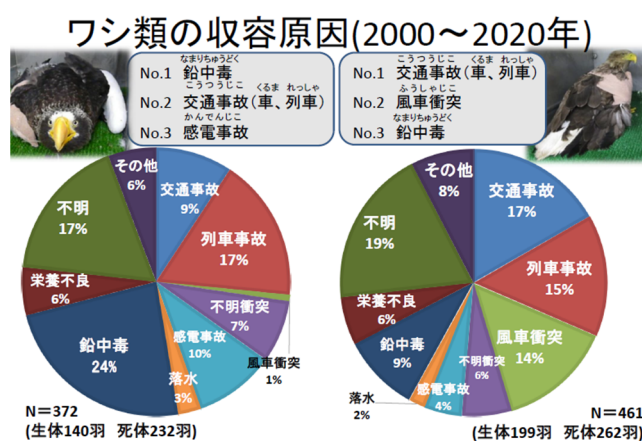


ケガをしたワシはどうなるの？ 猛禽類医学研究所のお仕事をのぞいてみよう！

11月20日（日）13名のこどもレンジャーが今年度4回目のイベントに参加しました。



猛禽類医学研究所では、運び込まれた希少猛禽類の治療やリハビリをする「救護」、回収された死体を検査し、原因究明をする「調査研究」などのお仕事をしています。

猛禽類がケガをしてしまうのは、交通事故、感電事故、鉛中毒、発電用風車との衝突事故など、人の経済活動が大きく関わっていることを学びました。



手術室では、特注のジャケットや目隠し、手袋を使いながら治療しています。例えば、目隠しをすることで鳥たちが大人しくなり、治療に専念できるようになります💡

また、人工保育器の中で懸命な治療を受けているエゾフクロウを間近で見学し、弱っている鳥たちには安定した環境やより高い酸素濃度が必要なことを学びました。



飼育されている猛禽類を細かく観察し、体調に合わせて餌の量を決めています。

今回の餌はサケとホッケ。

必要な分だけバケツに配分し、特別にオジロワシ・オオワシのいるケージの中へ運ぶ貴重な体験をしました。

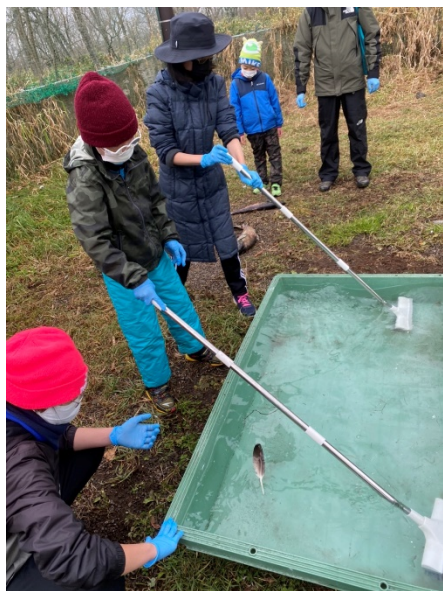
大きな魚を食べるのが大変なワシには、魚に切り込みを入れて食べやすくするなど工夫をしています。



特別にケージの中に入って間近でオジロワシ・オオワシを観察しました💡

研究所にはケガで重い後遺症が残り、野生に帰れなくなってしまった「終生飼育個体」のワシが約 30 羽います。

終生飼育のワシたちは、野生復帰訓練中のワシと一緒に居ることで、野生に近い環境でのリハビリや、事故対策の研究のお手伝いをしています。



ケージ内を清潔に保つことも大切な仕事です。モップや雑巾でケージを綺麗にするお手伝いをしました。



回復してきたワシたちは、広いケージで野生復帰のための訓練をします。わざとワシから遠い距離に餌を置くことで、遠くまで飛ぶように工夫をしています。

また、わざと人が追いかけることで、より長く飛べるようになるほか、人に慣れるのをできるだけ防ぐ工夫もしています。



ワシたちが安定してとまるための「とまり木」を作りました。

固くて大きな丸太をノコギリで切り落とし、ドライバーや釘を使って木をつなぎ合わせます。

難しい作業もありましたが、みんなで協力して作ることができました。



今回のイベントでは、猛禽類が人の経済活動によってケガをしたり、死んでしまっている現状を学びました。

そして、そのような猛禽類を救護・研究している猛禽類医学研究所のお仕事の一部を体験しました。猛禽類は生態系ピラミッドの中で頂点に位置しています。猛禽類の現状を知り、保護することは生態系全体を護ることに繋がります。

今回のイベントを通して、野生生物と共に生きるためにどうすれば良いかを考えて、行動してもらえたら嬉しいです！

ご参加いただいたみなさん、ありがとうございました🍀

猛禽類医学研究所 HP はこちら→



「釧路湿原国立公園連絡協議会」🔍の Instagram、Facebook もぜひご覧ください♪

釧路湿原国立公園連絡協議会



Instagram

釧路湿原国立公園連絡協議会



Facebook